

岡山大学病院は12月7日、拡張型心筋症の10代少女に脳死下心臓移植手術を行い、無事終了した。(ドナー：10代男児、提供施設：長崎医療センター)中：四国地方での脳死下心臓移植手術は初めてで、15歳未満の子どもからの脳死移植は国内4例目。

手術は、大学院医歯薬学総合研究科の佐野俊二教授(心臓血管外科)ら移植チームによる約30人体制で、同日午前8時35分から11時57分まで実施。手術後の会見で、佐野教授は、「提供された臓器の状態が非常に良かった。拒絶反応や感染症などに細心の注意を払う必要があるが、順調に回復すれば2、3カ月後に退院できる見込み」と話した。少女は、拡張型心筋症のため、内科的治療の限界により移植の方法しかないと判断し、



▲ヘリコプターで到着した心臓を運ぶスタッフ

中・四国地方初の 脳死心臓移植が無事終了 国内4例目

心臓移植手術の様子▼



2011年7月に臓器移植ネットワークに登録、待機していた。これまで3例ある15歳未満の子どもからの脳死心臓移植は、東京大学医学部附属病院と大阪大学医学部附属病院で行われているが、岡山大学病院での手術が無事に実施されたことで、中・四国地方に住む同じような状況の患者さんにとって遠方へ治療に赴く経済的・精神的負担が軽減されることになる。

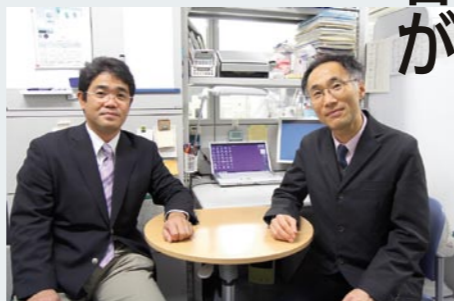
文●松尾俊彦/医歯薬学総合研究科(医)准教授
内田哲也/自然科学研究科(工)准教授

岡山大学方式 人工網膜

他施設が開発している人工網膜は電極の集合体を使った方式であるのに対し、岡山大学方式は光電変換色素をポリエチレン・フィルムの表面に化学結合させています。このため薄く、柔らかいので、丸めて眼球内の網膜下に挿入できます。電極からの電流の出力ではなく、光電変換色素分子による電位差の出力によって近接する網膜神経細胞を刺激するのが大きな特徴です。



この動きに注目してくださった網膜色素変性の患者会からの依頼で12月1日、医歯薬学総合研究科(医)の松尾俊彦と自然科学研究科(工)の内田哲也が人工網膜について講演しました。臨床については眼科医である松尾、製造については高分子材料学が専門である内田が話ししました。こうした講演会は今年2回目、この日も、患者さんやご家族から熱心な質問を多くいただき、人工網膜に寄せられる強い希望を感じました。岡山大学が持つ知の蓄積と人の輪で、医師主導治療を進め、この期待に応えたいと思いつつ、帰路に着きました。



▲連携して研究に取り組む内田准教授(左)と松尾准教授

Contribution 寄稿

医者と工学者が 二人三脚

「岡山大学方式 人工網膜」は、2004年の「いちよう並木」22号で紹介されました。あれから10年近く、医学部と工学部との「医工連携」で研究を進め、工学部で改良を重ねて最終完成製品を製造しています。患者さんに参加いただく治療の入口までたどり着きました。今年4月に岡山大学病院が厚生労働

1 TOPICS 「Junko Fukutake Hall」が 鹿田地区にオープン

地域に開かれた大学を目指し、人が集う場に



Jホールは、建築界のノーベル賞と称されるプリツカー賞を受賞し、仏・ルーブル美術館別館などを手がけた建築家ユニット「SANAA(サナア)」の設計。白を基調としたガラス張りの開放的なホールで、大きく張り出した軒が建物内と外の中間領域を作り、四方に広がっていく空間が特徴。「地域に開かれた大学」をイメージしており、医学部正門を入ってすぐ西に位置している。傾斜の異なる7枚の屋根の下には、カーテンでゆるやかに仕切ることができ、レクチャーホールや小ホール、コモンズスペースが設けられた。



▲福武純子氏(右)から目録を受け取る森田学長



▲記念対談の様子

福武教育文化振興財団副理事長の福武純子氏の寄付で岡山大学鹿田地区に完成した「Junko Fukutake Hall」(通称：Jホール)のオープニング式典が11月10日、同ホールで開催された。岡山大学の森田潔学長は、「シンボリックで人が集まるホールの完成は、本学が岡山の誇れる大学になる第一歩。ここから世界一を目指していきたい」とあいさつした。

式典には、福武氏をはじめ大森雅夫岡山市長、「SANAA」の妹島和世氏、西沢立衛氏、森田学長ら約150人が出席。福武氏から森田学長に目録が贈られ、「合理的で寛容でボーダレスな出会い、自由で愉快なコミュニケーションを誘発する場、セレンディピティを生み出す場」という福武氏の願いが込められた銘板の除幕を行った。人と人の素晴らしい出会いを意味するという「セレンディピティ」は、同ホールの根幹を為す願い。ベネッセホールディングス取締役会長の福武總一郎氏が「これからの岡山大学へ期待する事」と題して講演したほか、福武純子氏と森田学長、妹島氏、西沢氏による記念対談、岡山大学病院の肺移植チーフ・大藤剛宏准教授の講演があり、出席者らは熱心に聴講した。

言語カフェ「L-café」 来場者が1万人を突破



イムでは、留学生や日本人学生が森田学長らを囲んで英語で積極的に交流した。



言語学習や異文化交流を行うことを目的に2013年5月、岡山大学津島地区に開設された言語カフェ「L-café」の来場者が1万人を突破したことを記念し10月23日、「L-café」来場者1万人おめでとうParty」が同所で開催された。

森田潔学長や阿部宏史教育担当理事をはじめ、留学生や教職員ら約60人が参加。森田学長が、「さまざまな国の学生が学びを共有し、世界の知が集結する場となることを期待している」とあいさつし、1万人目の来場者の谷脇理史さん(経済学部1年)に記念品を手渡した。日ごろ「L-café」を利用する学生らは、合言葉「Don't be shy」と書かれたTシャツを着用し、授業や課外活動で「L-café」をアピール。イベント後半のAfternoon teaタイムでは、留学生や日本人学生が森田学長らを囲んで英語で積極的に交流した。